

## 京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第25回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2024年 **9**

地域連携学生プロジェクト lemon tree × 株式会社 永谷木材

### 木材の魅力を大切にし、多世代へ繋いでゆく

認知症について多世代での理解を深めるための活動を行う「lemon tree」が、様々な方々とのつながりを大切に事業展開をされている「株式会社 永谷木材」取材しました。

#### 【木材を通して人と人を繋ぐ思い】

「木材は私たちの身近に存在し続けている」。今回、永谷英樹社長への取材を通して、私たちはそのことを深く実感しました。

永谷木材さんでは、山城eco木材供給協議会（通称:山城エコモク）との共催で森林体感ツアーを開催しています。この森林体感ツアーでは、ターゲット層を次世代を担う子ども達やその保護者に設定し、自然や木材に触れてもらうことでその素晴らしさを実感してもらうことを狙いとしています。

また、木材やその加工が、認知症当事者の方に何かいい影響を与えるのではないかと考えるから、「作業工房ほうおう」（認知症当事者の働く場として、月に2回、京都認知症総合センター内で実施）で使う京都府産木材の調達や加工場の提供をされたと仰っていました。

これらのお話を聞いている際の永谷社長の様子からは、世代にとらわれず広く木材に関わる楽しさを伝えたいという気持ちが伺えました。

#### 【環境への思い】

永谷木材さんの企業理念の中に「環境にやさしい会社をつくる」というのがありました。私たちは、木の伐採と環境保全をどのように行っているか気になり伺ってみました。

木は、二酸化炭素を吸収し、酸素を出しますが、樹齢70年くらいになると、徐々にその活動が疎かになってくるそうです。年を重ね活動が出来なくなった木は、「環境にやさしくない木」です。第一の役目の光の合成を終えた木は倒木など、森林破壊につながり伐採して森林の環境を循環させていく必要があるのです。第二の役目として住宅資材等に二酸化炭素固定として役目を果たすことや、地域で活用することで、運送にかかるエネルギーの減少にも努めていくことが大切とのこと。資源を積極的に有効活用していくことで、森林を守っていくのだと思いました。

また、「地域貢献」にも力を入れており、社員の皆様でリサイクル品を集め、近隣の学校などへの寄贈もしているとのこと。環境への取り組みを大切にするだけに留まらず、他者へ還元する姿勢に感銘を受けました。

#### 【永谷木材さんの今後への思い】

「社員が一番の宝」と語る永谷さんに、次世代育成について伺ったところ、経営理念や就業規則の共有、木材産業の重要性や木材の良さを伝えることを重視していると語られました。最近は女性の林業家も増えており、社員教育は共に成長する環境づくりであると述べられました。

さらにInstagramなどwebやSNSを活用し、若い世代への発信にも力を入れています。私たち学生の問いにも丁寧に答えてくださり、そのユーモアある姿勢が印象的でした。



↑ 取材の様子



↑ 工場内の見学

#### 【今回の取材先】

株式会社 永谷木材



1983年に永谷英樹さんにより創業。1992年に法人化。現在、社員（パート2名含む）14名が在籍しています。企業向けの建築木材から端材の有効活用提案まで、木材に関わる加工から施工までを幅広く受け入れています。

#### 【今回の取材担当】

地域連携学生プロジェクト  
lemon tree

多世代での理解を深め、認知症を“他人事”ではなく“みんな事”あるいは“自分事”に。宇治市認知症アクションアライアンス（れもねいど）の輪の中に参画し、「認知症当事者やその家族にとってやさしいまち宇治」の実現に向けて寄与する、京都文教大学地域連携学生プロジェクトの団体です。



今回取材、記事作成を担当した学生と永谷さん。  
左から山内 聖貴さん（臨床心理学部1年次生）、嶋田 響さん（臨床心理学部2年次生）